



## 乳がんについて

外科医長 松本 涼子

### Q. 乳がんはどんな病気ですか。

**A** 乳がんは、乳房の中の乳腺（母乳をつくるところ）にできる悪性腫瘍です。

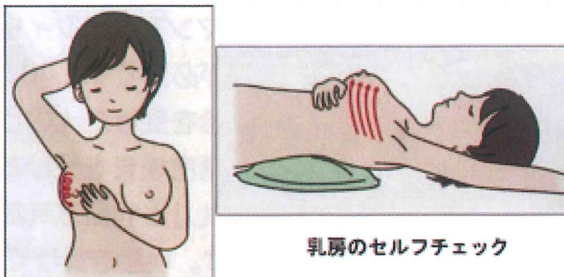
今や、女性の9人に1人が乳がんにかかるといわれています。女性のかかるがんの第1位が乳がんです。乳がんは40歳代後半と60歳代後半に多く、他のがんと比べて、働き盛りや子育て世代といった比較的若い世代に多いのが特徴です。

乳がんは比較的性質の良いがんで、早期発見して適切な治療を受ければ、ほぼ完全に治すことができます。また、たとえ進行していても、病状に応じた有効な治療が数多くあります。

### Q. 乳がんを早期に見つけるためにはどうすればよいですか。

**A** 40歳になったら、少なくとも2年に1度乳がん検診をうけることが最も重要です。乳がんは初期にはほぼ無症状だからです。

また、日頃からご自分の乳房をセルフチェックしてみましょう。鏡の前で両腕を挙げて、乳房にくぼみやひきつれはないか、乳首の陥没や、ただれがないかをみます。仰向けの姿勢や、入浴時に石鹸のついた手で、乳房やわきの下にしこりがないか触ってみてください。乳頭から茶色や赤色の分泌物がないかも確かめましょう。変化があった場合には、なるべく早く医療機関を受診してください。



乳房のセルフチェック

### Q. 乳がんにかかりやすいのはどんな方ですか。

**A** 乳がんの発症の多くは、女性ホルモンが深く関わっており、体内の女性ホルモンが多い状態が長く続くことで発症リスクが高くなります。具体的には、閉経が遅い、出産・授乳の経験がない、初産年齢が遅い、長期にわたって女性ホルモンを補充する治療をしていること、などがリスクとしてあげられます。

また、飲酒や運動不足といった生活習慣、閉経後の肥満、乳がんになった血縁者がいることも、乳がんのリスクとしてあげられます。

### Q. 乳がんの治療にはどのようなものがありますか。

**A** 手術療法、放射線療法、薬物療法があります。手術療法と放射線療法は、治療を行った部分に効果が期待できる「局所療法」であり、薬物療法は、目にみえないくらいのがん細胞も標的とする「全身療法」として位置づけられます。再発を防ぐために、これらを組み合わせて行います。それぞれの患者さんにとって最も適した治療を、納得いくまで話し合っ、選択していくことが大切であると考えております。

### Q. 乳房に症状があったときは、何科を受診すればよいですか。

**A** 乳腺外科、または外科を受診してください。乳腺に関するトラブルや不安などがある場合も、気軽にご相談ください。



外科外来 月～金 予約制  
まずは、外科外来にお電話ください。  
検診を希望される方は健康管理科へ  
お問い合わせください。